

出穂～登熟期編

向こう1ヶ月は高温となる確率が80%、降雨にも注意を

■ 7月27日発表の1ヶ月予報(7月29日～8月28日)によると、気温が平年より高い確率は80%となっています。
出穂後高温が続くと胴割粒や白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。適切な水管理で品質低下を防止しましょう。

■ また直近の2週間予報によると8月5日までは猛暑日が続く、8月8日以降は台風の影響で雨が降る確率が高くなっています。この時期は出穂～開花期に当たります。出穂直後の穂は、特にいもち病に弱いので、降雨が続くと穂いもちの発生が懸念されます。

日付	過去の実況							1週目の予報(日別)							2週目の予報(5日間平均)					
	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火 (6～10日)	水 (7～11日)	木 (8～12日)	金 (9～13日)	土 (10～14日)	
甲府 (最高気温)	38.7	38.5	38.3	36.9	37.4	37.7	37.0	当日	36	37	37	36	33	32	34	34	35	35	35	かなり高い 高い 平年並 低い かなり低い
甲府 (最低気温)	25.1	25.4	24.1	24.0	26.2	25.6	26.3	当日	25	24	25	25	24	25	25	25	25	25	25	

(気象庁HP)

出穂から1週間程度は湛水管理・高温時は水交換を

■ 出穂～登熟期の水管理は次のようにしてください。

- ① 出穂から1週間程度は、稲が最も水を必要としますので、湛水管理で水深3～5cmを保ってください。
- ② 出穂後1週間程度～出穂後30日の登熟期は、間断かん水(2日湛水、2日落水)とし、出穂後30日間は完全落水しないでください。
- ③ 出穂期以降も高温となる場合は、胴割れや白未熟粒が発生し品質が低下するので、水交換やかけ流しにより水温、地温の上昇を抑えてください。

穂いもち・斑点米カメムシの防除で減収回避

■ 穂いもち

- ① 出穂直後の穂は、特にいもち病に感染しやすいため薬剤防除を徹底してください。
- ② 穂いもちの防除時期は、「穂孕後期」と「穂揃期」の2回です。適期に防除してください。

■ 斑点米カメムシ(8月中の草刈は行わず、薬剤防除を徹底してください)

- ① 本田への発生が認められた場合は、殺虫剤を穂揃期と乳熟初期(穂揃期7～10日後)の2回散布してください。
- ② 粒剤を使用する場合は出穂期～出穂7日後までとし、湛水状態(水深3cm程度)で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しはさけてください。

NOSAI山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所 TEL:0553-22-5056
■南アルプス支所 TEL:055-282-0443
■本所 TEL:055-228-4711

■北部支所 TEL:0551-23-1111
■富士支所 TEL:0554-45-6611